

目的 伝統的住宅地域における家庭内清掃の実態やその意識の分析、検討を通して、家庭内清掃の変容の要因を明らかにし、その中から現在の住宅や住生活にふさわしい合理的な清掃方法を考へようとするものである。

方法 伝統的住宅地域において清掃についての意識、日常清掃の実態、大掃除の実態等についてアンケート調査を行った。調査対象地及び対象者；京都市中京区、主婦またはそれにかわる人。回収数は160件（回収率37%）調査方法；回収のみ郵送による留置自記法。調査時期；1986年12月初旬

結果 1. 調査対象家族は相対的に大家族が多く、また、高齢者世帯が多い傾向である。世帯主の職業は会社員、自営業が多く、主婦は無職が多い傾向である。2. 対象住宅は戦前に建てられた木造住宅で部屋数7室以上が過半数を占めている。また、入居年も30年以上が大半である。3. 掃除についての意識をみると、「掃除が好き」、「どちらともいえない」がほとんどであり、部屋の整理整頓に「気をつけている」が7割強である。そして、1日1回規則的に行っている。しかし、掃除についての満足度は時間がない、忙しいなどの理由で低い傾向である。4. 日常清掃についてみると、一番よく掃除をする場所はDK、居間である。ここは汚れやすい場所としてあげている割合も高く、また、掃除回数も他の部屋に比べ多く、主婦によって毎日行われている。掃除の時間帯は午前中、所要時間は30分以内である。5. 大掃除は6割の家庭で年末に行われている。